

3. 福田・椎塚の土器

本節では、前節で示した福田・椎塚貝塚の土器に関する今回の調査をふまえて、そこから指摘できる土器の時期的な構成や、器種組成に関するいくつかの論点を示す。

1. 遺跡の形成期間と下郷コレクションの時期的な構成

まずは、下郷コレクションの福田・椎塚の土器を時期的な構成という点から、みてみよう^(註1)。

高島は、氏の文献(高島 1915・1916a・b)によれば、椎塚を1906年(明治39)～1908年(明治41)にかけて5回、福田を1907年(明治40)～1909年(明治42)にかけて、15回発掘している。1回の調査は、いずれも1～数日の短いものである。椎塚の発掘は比較的短期で回数も少ない。一方、福田に関しては、従来の文献では貝塚全体の様相が把握・報告されていない点に問題をみいだしたことから、その全体を掘りつくすことを意図したようである。その点も反映されているのであろう、所蔵されている土器個体数は椎塚より福田の方が多い。

また、福田では複数の貝塚群のうち、神明前地点に加え、一連の調査の後半には薬師台地点も調査されたことが記録されている。それを裏付けるように、下郷コレクションにも「福田」と「薬師台」の2種類の注記が存在する。

なお、高島の記載をみると、自ら発掘したもの他に、地元の人が採集・発掘したものも入手している。現在下郷コレクションとして一括されている中には、これらの資料も含まれている可能性が高い。

1) 椎塚貝塚の時期的な構成

椎塚を初めて本格的に調査した八木らの調査では、図版をみると堀之内2式～安行3a式が確認できるが、量的には加曽利B式が多いようである〔八木・下村1893〕。ただし、当時の調査は、貝層の下面を「敷」と称し、貝層の下層はあまり発掘していない。そのため空間的要素以外に垂直的な面でも遺跡形成期間の全容を示す内容とは捉えられないことが、福田を例に指摘されている〔阿部他2011〕。1949年の慶応義塾中等部考古会による貝層の調査でも加曽利B式が主体であった〔慶應義塾中等部考古会1950〕。また、貝層部を中心に最近盗掘されたその残りの資料の報告では、堀之内2式～加曽利B3式、中でも加曽利B1～B2式が量的主体をなすことを指摘し、貝層の形成時期が推定されている〔阿部他2011〕。

高島の資料も加曽利B式が多い点で、これらとの共通性が高い。今回の調査で個別別に確認した椎塚の土器は119点である。その時期的な幅は、堀之内1式～安行3b式期に及んでいる。時期的な量比をみてみよう。堀之内式は19点だが、1式は少なく、主体は2式である。72点ある加曽利B式がコレクションの主体を占める。中でも加曽利B1～B2式が多い点は、前述の貝層周辺で採集した資料の構成〔阿部他2011〕と共通する。加曽利B3式以降は少ないが、安行式が数点存在する。晩期に比定できるものは1点である。

加曽利B3式土器は八木・下村や慶應中等部等の調査では出土しており、高島の資料に少ないのは、調査地点の限定性などによる偏りと考えられる。

2) 福田貝塚の時期的な構成

明治期のような完形に近い土器だけではなく、破片まで詳細に分析された1971年の神明前地点の

調査では〔渡辺編 1991〕、中期の加曾利 E 式前半、及び終末期の土器を経て、後期では初頭の称名寺式～晩期姥山Ⅱ式までの継続的な出土が確認されている。従来の報告資料も、ほぼその枠内に収まるものである。また、貝層は加曾利 B1～B3 式期の上部貝層と、堀之内 1 式期の下部貝層の大別 2 層が存在したことが初めて明らかにされた。高島資料は、前者の時期を主体とする。

前述のように、下郷コレクションには「福田」と「薬師台」の 2 種の注記が存在する。前者は神明前地点を中心としながら他の地点を含む可能性があるが、後者は薬師台地点に限定できよう。

「福田」の個体別に確認した土器は 155 点である。時期は堀之内 1 式～姥山Ⅱ式期に及ぶ。堀之内 1 式は 24 点だが、主体は 2 式である。加曾利 B 式が 71 点程と半数近くを占める。加曾利 B1～B3 式の各型式が一定量ずつ存在するが、前半の方が多い。後期後葉は 23 点で、曾谷・安行 1・2 式の各型式が揃う。晩期は数点だが、安行 3a 式・姥山Ⅱ式期の土器が存在する。

一方、「薬師台」の土器は 50 点である。その構成は「福田」と類似し、加曾利 B 式が 25 点とその多くを構成する。やはり加曾利 B2 式以前が主体である。前後の時期の堀之内式、安行式はそれぞれ数点ずつであった。

すでに指摘されているように〔阿部他 2011〕、福田・椎塚両遺跡の出土型式の時間幅と、加曾利 B 式を主体とする量的な比率は類似している。当時の発掘は、貝層及びその周辺を中心とした偏ったものであったにせよ、当周辺地域では、加曾利 B 式を中心とした時期に、面的に広がる比較的規模が大きい累積的な貝層の形成が、集落における常態であったことが確認できる。今回観察された貝層由来と推測される貝カルシウムの土器への付着も、椎塚・福田・薬師台ともに、加曾利 B 式を主体として一部堀之内式土器を含むものであった。

また、大別 2 地点が発掘された福田では、神明前・薬師台地点ともに加曾利 B 式を中心とする点で、同時期的に貝層が形成されていたことが推測される〔阿部他 2011〕。そして、薬師台地点では少ないながら、両地点で安行式以降も出土しているのである。

2. 土器型式の成り立ちと器種組成

次に、福田・椎塚の加曾利 B 式の器種組成のあり方から指摘できる、課題の一端を考えてみよう。ただし、下郷コレクションの土器群は、いわゆる精製土器や小形で完形に近い個体を中心としたものであって、当時の組成の主体を占めていたはずの粗製深鉢は非常に少ない。完形及びそれに近いものを持ち帰ったために破損しやすい大形土器は少なかったにせよ、高島の発掘の目的を示唆する内容なのであろう^(註2)。その点で、この土器組成が当時の実態を示すと、直ちに捉えることはできない。

1) 『日本先史土器図譜』と福田・椎塚貝塚

関東地方の後晩期土器編年を構築した山内清男は、『日本先史土器図譜』(以下『図譜』と記載)でその内容の一端を、完形もしくはそれに近い土器を中心に写真で示し、説明した〔山内 1939～1941〕。その堀之内式から晩期安行式土器の中で、福田・椎塚の土器は加曾利 B 式(古)から晩期安行式までほぼ一貫して取り上げられている(表 1)。この点から山内にとって、両遺跡は常南総北地域における、後晩期の通時的な参照基準遺跡であったことが理解される。これは東京大学に在職中の山内が、小林達雄氏に理学部人類学教室の廊下の棚に陳列されていた土器を写真撮影させたが、その大分が、椎塚や福田をはじめ常南総北の貝塚地帯から発掘された加曾利 B 式であったという、安孫子氏の述懐からも伺えよう〔安孫子 1998〕。

表1 『日本先史土器図譜』に用いられた福田・椎塚の土器

	加曽利 B(古)			加曽利 B(中)	安行(前半)			安行(後半)		
	図番号	器種	所蔵		図番号	器種	所蔵	図番号	器種	所蔵
福田	21	浅鉢	帝室博物館	該当なし	68	注口	人類学教室	93	浅鉢	中沢澄男
	26-1)	浅鉢	人類学教室					97	注口	下郷共済会
椎塚	25-1)	深鉢	東大人類学教室	該当なし	64-2)	浅鉢	人類学教室	該当なし		
					66-1)	鉢	人類学教室			

ところで、その『図譜』の後期中葉から晩期前半の間、唯一、福田・椎塚が採用されていないのは、加曽利 B 式(中位の古さ)である。この型式で写真が提示された土器は、よく知られたように斜線文による装飾を施したものが中心となっている。それらの主体は大山史前学研究所が調査した遠部台遺跡から出土した資料であり、近隣の江原台遺跡の出土品をその補足資料として主に用いている。これは、型式の設定にはある狭い範囲にある幾つかの遺跡の土器を用いるという、山内の方針〔山内1964〕に最も適した資料群ということができよう。

高島の福田・薬師台採集品には、先述のように加曽利 B2 式土器が一定量含まれている。そしてその資料群の存在を山内も認識していたことは、『図譜』で福田の安行 3a 式の注口土器を下郷コレクションより選択していることから明らかである。一方、下郷コレクションの加曽利 B2 式には、斜線文施文の土器は比較的少なく、そのため山内が『図譜』で示したような器形的なバリエーションの多様性も捉えがたい。また、下郷コレクション以外の福田・椎塚資料中、これまで図化及び写真撮影された土器群をみても、斜線文装飾の土器は、決して精製土器の大多数を占めるようには、多くはないようにみえる。

山内自身が『図譜』の解説の中で、斜線文以外にも複数種類の磨消縄文の装飾が存在することを指摘しているが、この時期に大きく加曽利 B 式の分布圏と捉えられている関東東部の中で、各遺跡の実態としては各文様系列の器形の種類及び系列間の比率の点で、どのような組み合わせとして存在し、変遷したのだろうか。遺跡や小地域間で、どの程度の一律性または差異性があつたのだろうか。

関東東部の土器の文様系列に注目した研究には、鈴木正博氏の先行研究〔鈴木編 1981 他〕があり、中妻貝塚の加曽利 B2 式では斜線文が主体を占めるという。土器の系列および土器製作技術の保有形態やその伝達と選択性の実態を考える上で、改めて問われる問題である。

2) 一部の土器の偏在性について

福田・椎塚は既知のように珍品を多数出土する遺跡として著名であつた〔大山・大給 1938 他〕。環状の注口土器、鳥形土器、鮑形土器などがよく知られたところである。通常の一土器型式分布圏とされる中にも、その分布圏内の広域に渡り共通する要素と、より狭い範囲、特定な遺跡もしくは小地域に特有な、偏在的な要素が存在するということになるのであろうか。

後者の偏在性の問題に関しては、まずその内容のなりたち・構成を解明することが必要であろう。例えば、それらは異なる土器型式分布地域からの搬入品のみで成り立っているのか、それとも模倣製作品などを含むために多いのか、では、その背景の実態が異なるからである。

小形の壺形土器もその多出性が指摘されている器種の一つである〔鈴木正博他 2008〕。ここでは詳細な分析の用意はないが、福田の加曽利 B 式期の壺形土器を概観してみよう。時期的には加曽利 B1 新～B2 式・B3 式に及び、その内容も一様ではない。東北地方の例に類似したもの他に、在地的な系統の文様要素で装飾したものが複数あるし、器形や文様の割付にも多様性が指摘できる。壺形土器

の少なくともその一部は、東北地方からの何らかの形での伝達品と考えられるが、そのような従来の組成にはあまりない要素がどのように伝わり、またそれをどのように受容していったのかが問題となろう。また、それが関東東部域の他の遺跡で少ないならば、型式分布圏内で、広域的に共有して保有された他種の土器と異なり、それに関する情報は伝達されなかったか、伝達されても受け手の集団内では受け入れられなかったことになる。

今回下郷コレクションの中には確認できなかったが、やはり東北の単孔壺との関係も可能性として推測されている椎塚の台付単孔壺に関しては、異形台付土器へと変化させ、関東でも広域的に広がっていくものの、その変遷や分布状況は一律ではない複雑な状況が指摘されている〔堀越 1997〕。

情報の伝達と受容のそれぞれにおける各集団の選択性とその背景、という問題を考える上では、特定の器種や特定の遺物、分布の広域性・偏在性に限らず、それらを相互比較したときに見えてくる問題がありそうである。

壺形土器は下郷コレクションの中では福田には多いが、椎塚ではそれほどではない。それが実体かどうかも含め、一定の地域内における近接する集落間の共通性と差異の検討も今後の課題であろう。

今回の小文では、下郷コレクションのもつ研究課題の一端を示した。新たなリストの作成を通じて、コレクションの全容を捉え、それによって設定できる問題の抽出が、重要である。

【註】

- (1) 今回の型式比定にはやや幅を持たせたものがあり、細別の余地があるものを含む。今後の課題である。
- (2) 高島の一連の発掘の意図に関して杉山博久氏は、学会の問題点を意識しながらも、珍品主義を抜け出るものではなかった、との見解を示している〔杉山 1999〕。一方、個人・学会のいずれにしても、その対象に対する興味が初歩ではあるし、杉山氏も指摘しているようにその資料群が当時の学会を支えていた面があったことも確かであろう。

【参考文献】

- 安孫子 昭二 1998『縄文後期加曽利B式・中国地方の陶棺・下総国分寺・尼寺資料 山内清男考古資料』9, 奈良国立文化財研究所
- 阿部 芳郎他 2011「考古コレクション形成過程に関する基礎的研究 下郷伝平コレクションにおける椎塚貝塚・福田貝塚資料の由来」『駿台史学』第142号, 駿台史学会
- 大山 柏・大給 尹 1938「福田椎塚行」『史前学雑誌』10-3, 史前学会
- 慶應義塾中等部考古会 1950『茨城県稲敷郡椎塚貝塚』
- 杉山 博久 1999『魔道に魅入られた男たち』, 雄山閣
- 鈴木 正博・鈴木 加津子編 1981『取手と先史文化』下巻, 茨城県取手市教育委員会
- 鈴木 正博・加藤 俊吾 2008「黎明期の考古コレクションと貝塚研究」『季刊考古学』第105号, 雄山閣
- 高島 多米治 1915「常陸福田介墟(一)～(三)」『人類学雑誌』第30巻 第8号～10号, 東京人類学会
- 高島 多米治 1916a「常陸福田介墟(四)」『人類学雑誌』第31巻 第3号, 東京人類学会
- 高島 多米治 1916b「椎塚介墟篇(一)～(二)」『人類学雑誌』第31巻 第4号～5号, 東京人類学会
- 堀越 正行 1997「異形台付土器と土偶の背景」『土偶研究の地平』, 勉誠社
- 八木 契三郎・下村 三四吉 1893「常陸国椎塚貝塚発掘報告」『東京人類学会雑誌』第8巻 第87号, 東京人類学会
- 山内 清男 1939～1941『日本先史土器図譜』, 先史考古学会(1967再版 先史考古学会)
- 山内 清男 1964「I 縄文土器の年代別と地方別」『日本原始美術』1, 講談社
- 渡辺 誠 編 1991『茨城県福田(神明前)貝塚』, 財団法人古代学協会

■下郷コレクション 福田貝塚・薬師台貝塚・椎塚貝塚土器一覧

(作成担当：須賀・加藤)

《福田貝塚》

遺跡名	観察	整理番号	数量	型式	器形	注記	文献	備考
福田	※	A 1						
福田他	※	A 14						注口部などがまとまる。
福田他	※	A 15						B57 図版 3 含む。
福田他	※	A 16						B57 図版 3・B85 図版 3 含む。
福田他	※	A 17						
福田		A 42		1 加 B3- 曾	深鉢	福田		
福田		A 43	1	1 安 3a	注口	福田貝塚 明治四十年三月		
福田		A 43	2	1 加 B3	壺	福	D44	
福田		A 43	3	1 堀 1	鉢	福田		球胴。
福田†		A 43	4	1 曾期	浅鉢	注記なし		
福田		A 43	5	1 加 B3	壺	福田	B88 図版 1, D45 左	
福田		A 43	6	1 加 B2 期	壺	福田	D45 右	
福田		A 43	7	1 曾	壺	福田	B7 図版 6, D46	
福田		A 44	1	1 安 1	鉢	福田		線画状の細沈線あり。
福田		A 44	2	1 堀 2	深鉢	福田	B47 図版 5, D9	
福田		A 44	3	1 堀	深鉢	福田	D6	
福田		A 44	4	1 加 B1	深鉢	福田		
福田		A 45	1	1 加 B2	浅鉢	福田		
福田		A 45	2	1 加 B3	浅鉢	福田	D35	
福田		A 45	3	1 加 B2	鉢	福田		
福田		A 45	4	1 後晩	浅鉢	福田		
福田		A 45	5	1 加 B1 新	浅鉢	福田	D37	
福田		A 45	6	1 加 B2-3	浅鉢	福田		
福田		A 45	7	1 加 B1	浅鉢	福田		
福田		A 45	8	1 加 B2	深鉢	福田	D40	
福田		A 45	9	1 安	鉢	福田		
福田		A 45	10	1 堀 2	浅鉢	福田		
福田		A 45	11	1 加 B2	鮑形	福田		
福田		A 45	12	1 曾 - 安 1	有孔突起付浅鉢	福田		
福田		A 45	13	1 加 B1	浅鉢	福田		
福田		A 45	14	1 安 1	浅鉢	福田	D39	
福田		A 45	15	1 加 B	浅鉢	福田		
福田		A 45	16	1 安 1	浅鉢	福田		
福田		A 45	17	1 堀 2	浅鉢	福田	D12	
福田		A 45	18	1 加 B2	浅鉢	福田		
福田		A ?	1	1 曾	浅鉢	福田		管理番号注記摩滅。
福田		A 46	1	1 加 B2	浅鉢	福田		小形。
福田		A 46	2	1 加 B?	浅鉢	福田		小形。
福田		A 47	1	1 加 B3	台付鉢	福田	B78 図版 4 か?, D28	B 図版とやや異なる。
福田		A 48	1	1 安 1	片口付鉢	福田		
福田		A 48	2	1 堀 2	注口	福田	B74 図版 2, B12 文様図版 1, B 47 文様図版 6	注口部別個体。
福田		A 48	3	1 加 B1 新-2	注口	福田	B108 図版 7 か?	図版とやや異なる。
福田		A 48	4	1 加 B2	注口	福田	B107 図版 12, D19 右	
福田		A 48	5	1 安 1	片口付鉢	7-40 福田	D47	
福田		A 48	6	1 加 B2	注口	福田 四十年三月	B107 図版 4, D19 左	
福田		A 49	1	1 堀 2	舟形鉢	明治四十年三月 福田貝塚	B142 図版 15, D30	
福田		A 50	1					所在不明。
福田‡		A 50	2	1 安 3a-b	異形浅鉢	40.4.28	B61 図版 5	
福田		A 68	2	1 堀 1	深鉢	福		
福田		A 68	14	1 加 B1-2	深鉢	福田		
福田か		A 69	1	1 加 B3	浅鉢	「福田」か		
福田‡		A 69	3	1 加 B2	角底	注記なし	B48 図版 2, C13	
福田 / 椎塚		A 69	9	1 安 2-3a	浅鉢	福田 椎塚		
福田		A 72	4	1 曾?	注口	福田	D20	『縄文集英』では遺跡名なし。
福田		A 74	1	1 加 B	釣手	福田	C12	
福田		A 89	1	1 加 B1 新-2	台付? 深鉢	福田		
福田		A 89	2	1 加 B3	深鉢	福田		小形。
福田		A 89	3	1 加 B?	有孔突起付鉢	福田		
福田		A 89	4	1 安 1	鉢	福田	D48	『縄文集英』では遺跡名なし。
福田		A 90	1	1 加 B2	広口壺	福田		

遺跡名	観察	整理番号	数量	型式	器形	注記	文献	備考
福田		A 90	2	1 加 B2	壺	福田		
福田		A 90	3	1 加 B1	深鉢	福田		小形。
福田		A 90	4	1 加 B1 新-2	壺	福田		
福田		A 90	5	1 加 B1 新-2	壺	福田		
福田 / 椎塚		A 90	6	1 加 B1-2	壺	福田 椎塚		
福田		A 90	7	1 加 B2	壺	福田	B88 図版 3	
福田		A 91	1	1 堀 2	深鉢	福田		
福田		A 91	2	1 後晩	深鉢	福田		
福田 †		A 91	3	1 加 B1	深鉢	注記なし		
福田		A 91	4	1 加 B	鉢	福田		
福田		A 91	5	1 堀 2	深鉢	福田		
福田		A 91	6	1 加 B	鉢	福田		
福田		A 91	7	1 加 B1	深鉢	福田		木葉痕。
福田		A 91	8	1 堀 2- 加 B1	深鉢	福田		
福田		A 91	9	1 加 B1	深鉢	福田		
福田		A 91	10	1 加 B1	深鉢	福田		
福田		A 91	11	1 堀 2	深鉢	福田		
福田 †		A 91	12	1 宝ヶ峰	深鉢	注記なし		
福田 †		A 91	13	1 堀	深鉢	注記なし		
福田		A 91	14	1 堀 2	深鉢	福田		
福田		A 91	15	1 堀 2	深鉢	福田		
福田		A 91	16	1 堀 1	深鉢	福田		
福田 †		A 91	17	1 堀 2	深鉢	注記なし		
福田		A 92	1	1 堀 2- 加 B1	鉢	福田		
福田		A 92	2	1 加 B	浅鉢	福田		
福田		A 92	3	1 堀 2	浅鉢	福田 7-40		
福田		A 92	4	1 堀 2	浅鉢	福田		
福田		A 92	5	1 堀 - 加 B	鉢	福田		
福田		A 92	6	1 後晩	鉢	福田		
福田		A 92	7	1 加 B3	浅鉢	福田		
福田		A 92	8	1 加 B1-2	鉢	福田		
福田		A 92	9	1 加 B2-3	浅鉢	福田		
福田		A 92	10	1 加 B1	鉢	福田		
福田		A 92	11	1 加 B	浅鉢	福田		
福田		A 92	12	1 堀 2	浅鉢	福田		
福田		A 92	13	1 堀 2	浅鉢	福田		
福田		A 92	14	1 後晩	浅鉢	福田		
福田		A 92	15	1 堀 2- 加 B	浅鉢	福田		
福田		A 92	16	1 加 B1	浅鉢	福田 四〇. 七		
福田		A 92	17	1 堀 2	浅鉢	福田		
福田		A 92	18	1 堀 2	浅鉢	福田		
福田		A 92	19	1 加 B	浅鉢	福田		
福田		A 92	20	1 後晩	鉢	福田		小形。
福田		A 92	21	1 加 B2-3	浅鉢	福田		
福田		A 92	22	1 後晩	浅鉢	福田		小形。
福田		A 92	23	1 後晩	鉢	福田		球胴。小形。木葉痕。
福田		A 92	24	1 加 B3	浅鉢	福田		
福田 †		A 92	25	1 堀 2	浅鉢	注記なし		
福田		A 92	26	1 後晩	浅鉢	福田		
福田		A 92	27					所在不明。
福田		A 92	28	1 加 B1	浅鉢	福田		
福田		A 92	29	1 晩 ?	皿	福田 四拾年十月	B45 文様図版 4	
福田		A 92	30	1 安 2	台付 ? 鉢	福田		
福田		A 92	31	1 加 B3	浅鉢	福田		
福田		A 92	32	1 加 B	鉢	福田		
福田		A 92	33	1 後晩	浅鉢	福田		
福田 †		A 92	34	1 加 B	浅鉢	注記なし		
福田		A 92	35	1 加 B1-2	浅鉢	福田		
福田		A 92	36	1 後晩	浅鉢	福田		
福田		A 92	37	1 加 B1-2	浅鉢	福田		
福田		A 92	38	1 加 B1-2	浅鉢	福田		
福田		A 92	39	1 加 B1-2	浅鉢	福田		
福田		A 92	40	1 加 B1-2	浅鉢	福田		
福田 / 椎塚		A 92	41	1 後晩	浅鉢	福田 椎塚		
福田 †		A 92	42	1 安 3a-b	角底	注記なし		
福田		A 92	43	1 加 B1	舟形鉢	福田		
福田		A 92	44	1 加 B1	舟形鉢	福田		
福田		A 92	45	1 安 1	鮑形	福田		

遺跡名	観察	整理番号	数量	型式	器形	注記	文献	備考
福田		A 92	46					所在不明。
福田		A 92	47	1 加 B	浅鉢	福田		
福田†		A 92	?	1 加 B3	舟形浅鉢	注記なし		
福田		A 93		1 加 B2	台付浅鉢	福田		ミニチュア。
福田†		A 94	1	1 加 B2	注口	注記なし		
福田		A 94	2	1 加 B3	注口	福田貝塚 明治 四十年二月十一日	B106 図版 6	赤彩。
福田		A 94	3	1 安 1	注口	福田	D21	
福田		A 94	4	1 堀 2	注口	福田	D15	
福田		A 95	1	1 安	片口付鉢	福田		
福田		A 95	2	1 加 B	片口付鉢	福田		
福田		A 96		1 後晩	有孔突起付鉢	福田		
福田		A 97		1 加 B3- 曾	釣手	福田		
福田		A 98	1	1 加 B2	異形台付	福田		
福田		A 98	2	1 加 B2-3	異形台付	福田		
福田		A 98	3	1 加 B3- 安 1	異形台付	福田		赤彩。
福田		A 98	4	1 加 B3- 安 1	異形台付	福田		赤彩。
福田		A 99	1	1 後晩	鉢	福田		手づくね。
福田		A 99	2	1 後晩	鉢	福田		手づくね。
福田		A 99	3	1 後晩	鉢	福田		手づくね。
福田		A 99	4	1 後晩	不明	福田		手づくね。
福田		A 99	5	1 後晩	浅鉢	福田		手づくね。
福田		A 99	6	1 後晩	鉢	福田		手づくね。
福田		A 99	7	1 後晩	台付鉢	福田		手づくね。
福田		A 99	8	1 後晩	壺?	福田		手づくね。
福田		A 100	1	1 加 B1	鉢	福田		
福田		A 100	2	1 安	台付鉢	福田		
福田		A 100	3	1 加 B2-3	台付	福田		
福田		A 100	4	1 新地	壺	福田		
福田†		A 100	5	1 安	異形台付	注記なし		
福田		A 100	6	1 安	台付	福田		
福田		A 100	7	1 曾	鉢	福田		球胴形。小形。
福田		A 138	7	1 姥山Ⅱ	浅鉢	福田 (一部欠落)		
福田‡		A 138	12	1 加 B1	浅鉢	注記なし	B57 図版 2	
福田		A 141		1 加 B3- 曾	釣手	福田		頂部と 1 本のみ遺存。
福田		A 143	2	1 加 B2	台付浅鉢	福田		ミニチュア。
福田		A 143	30	1 安 1	片口付鉢	福田		
福田		A 143	32	1 曾 - 安	異形台付	福田		注口土器に復元。
福田		A 143	34	1 加 B	釣手	福田		
福田‡		無		1 新地	壺	注記なし	B78 図版 6	

《葉師台貝塚》

遺跡名	観察	整理番号	数量	型式	器形	注記	文献	備考
葉師台	※	A 11						
葉師台		A 18	1	1 堀 1	深鉢	葉師台	B18 文様図版 5	
葉師台		A 18	2	1 加 B2	鉢	葉師	B101 図版 6 か?, D33	B 図版とやや異なる。
葉師台		A 18	3	1 加 B1-2	鉢	葉師台		
葉師台		A 19	1	1 堀 2	浅鉢	葉師台		
葉師台		A 19	2	1 堀 1	浅鉢	葉師台		
葉師台		A 19	3	1 堀	浅鉢	葉師台		
葉師台		A 19	4	1 後晩	浅鉢	葉師		
葉師台		A 19	5	1 安?	浅鉢	葉師		
葉師台		A 19	6	1 加 B?	舟形浅鉢	葉師台		
葉師台		A 20	1	1 加 B1-2	舟形皿	葉師		
葉師台		A 20	2	1 曾	浅鉢	葉師		
葉師台		A 21	1	1 加 B2	台付浅鉢	葉師		
葉師台		A 21	2	1 加 B2	台付浅鉢	葉師		
葉師台		A 22		1 加 B1 新-2	注口	葉師台	B149 図版 7, D56	『縄文集英』では遺跡名なし。
葉師台		A 23		1 加 B1	双口	葉師台 四十一年 七月	B108 図版 5, D11	
葉師台 / 余山		A 79	4	1 堀 2	深鉢	余山 葉師台		
葉師台		A 121	1	1 加 B2	壺	葉師	D41	『縄文集英』では遺跡名なし。
葉師台		A 121	2	1 加 B2	壺	葉師台	D42	
葉師台		A 121	3	1 加 B	深鉢?	葉師		楕円胴。小形。
葉師台		A 121	4	1 加 B	壺?	葉師		赤彩。
葉師台		A 121	5	1 加 B1?	深鉢	葉師台		楕円胴。小形。

遺跡名	観察	整理番号	数量	型式	器形	注記	文献	備考
薬師台		A 121	6	1 加 B1-2	壺	薬師		
薬師台		A 121	7	1 加 B2	壺?	薬師		
薬師台		A 122	1	1 加 B2	深鉢	薬師		
薬師台		A 122	2	1 堀	深鉢	薬師		
薬師台		A 123	1	1 堀 2	鉢	薬師台		
薬師台		A 123	2	1 堀 2- 加 B1	鉢	薬師台		
薬師台		A 123	3	1 安 1	鉢	薬師		
薬師台		A 123	4	1 安?	浅鉢	薬師		
薬師台		A 123	5	1 加 B	鉢	薬師台		
薬師台		A 123	6	1 堀	鉢	薬師台		
薬師台		A 123	7	1 加 B1	鉢	薬師台		
薬師台		A 123	8	1 加 B1-2	舟形鉢	薬師		
薬師台		A 123	9	1 加 B1-2	鉢	薬師		
薬師台		A 123	10	1 安	浅鉢	薬師		
薬師台		A 123	11	1 加 B1	浅鉢	薬師		
薬師台		A 123	12	1 加 B2	浅鉢	薬師台		
薬師台		A 123	13	1 加 B1-2	浅鉢	薬師台		
薬師台		A 124		1 後晩	四足付浅鉢	薬師台	B76 図版 7 か?	図版とやや異なる。
薬師台		A 125		1 安 1	注口	薬師台		
薬師台		A 126		1 加 B2	釣手	薬師台		
薬師台		A 127		1 安 3b	異形台付	薬師台		
薬師台 †		A 128	1	1 加 B2	浅鉢	注記なし		小形。
薬師台		A 128	2	1 後晩	浅鉢	薬師		手づくね。
薬師台		A 128	3	1 後晩	舟形浅鉢	薬師		手づくね。
薬師台		A 128	4	1 曾 - 安 1	注口	薬師		ミニチュア。
薬師台		A 128	5	1 後晩	浅鉢	薬師		手づくね。
薬師台		A 128	6	1 加 B3	深鉢	薬師		ミニチュア。
薬師台		A 128	7	1 後晩	舟形浅鉢	薬師台		小形。
薬師台		A 128	8	1 後晩	深鉢	薬師		小形。
薬師台		A 129		1 加 B2	壺?	薬師		

《椎塚貝塚》

遺跡名	観察	整理番号	数量	型式	器形	注記	文献	備考
椎塚	※	A 4						
椎塚		A 51	1	1 加 B1 新	深鉢	明治四拾年一月 椎塚	B105 図版 3, D27	
椎塚		A 51	2	1 曾 - 安 1	深鉢	椎塚		
椎塚		A 52		1 加 B	壺	椎塚		小形。
椎塚		A 53	1	1 加 B1	深鉢	椎塚		
椎塚		A 53	2	1 堀 2- 加 B1	深鉢	椎塚		
椎塚		A 53	3	1 堀 2	深鉢	椎塚		
椎塚		A 53	4	1 堀 2- 加 B1	鉢	椎塚		
椎塚		A 53	5	1 加 B2	深鉢	椎塚		
椎塚		A 53	6	1 堀 2	深鉢	椎塚	D7	
椎塚		A 53	7	1 加 B1-2	鉢	椎塚		
椎塚		A 53	8	1 加 B1 新	深鉢	椎塚	B6 文様図版 4・5	
椎塚		A 53	9	1 加 B2	深鉢	椎塚	D22	底と胴部分離。
椎塚		A 53	10	1 加 B1	鉢	椎塚 明治四十一年一月	B41 図版 4, B8 文様 図版 7	底と胴部分離。
椎塚		A 53	11	1 堀 2	深鉢	椎塚		底と胴部分離。
椎塚		A 54		1 加 B1 新	有孔台付深鉢	椎塚	B48 図版 4	セメント部も図化。
椎塚		A 55	1	1 加 B1-2	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 55	2					所在不明。
椎塚		A 55	3	1 加 B1	浅鉢	椎塚	D36	
椎塚		A 55	4	1 加 B2	鮑形	椎塚		
椎塚		A 55	5	1 加 B1	浅鉢	判読不能		
椎塚		A 55	6	1 加 B1	鉢	椎塚	B26 図版 8	図版は刺突省略。
椎塚		A 56	1	1 堀 2	注口	椎塚	B149 図版 8	図版と注口の形異なる。
椎塚		A 56	2	1 加 B1-2	環状注口	椎塚 福	B81 図版 1, D57	注口部は別個体、「福」の注記。本体の注口剥落部に「椎塚」の注記（『縄文集英』写真。同書では遺跡名なし）。
椎塚		A 57	1	1 後晩	釣手	椎塚	B144 図版 3 か?	底面に線画状細沈線。図版とやや異なる。
椎塚 †		A 57	2	1 加 B1-2	舟形浅鉢	注記なし		釣手に復元。
椎塚 ‡		A 68	13	1 加 B?	深鉢	「塚」?	B6 文様図版 1・2	
椎塚 †		A 72	2	1 堀 1	注口	注記なし	B74 図版 1, C2, D14	『縄文集英』では遺跡名堀之内。B 図版では椎塚。

遺跡名	観察	整理番号	数量	型式	器形	注記	文献	備考
椎塚		A 72	3	1 堀 2	注口	椎塚	A 58 頁, C4, D16	注口部と本体は別個体。『縄文集英』では遺跡名なし。
椎塚 ↓		A 72	5	1 加 B1 新 -2	注口	注記なし	B108 図版 2	
椎塚		A 76	1	1 安 2-3a	異形台付	椎塚		
椎塚		A 76	2	1 安	異形台付	椎塚		
椎塚		A 83	1	1 加 B1-2	深鉢	椎塚		
椎塚		A 83	2	1 加 B1 新	深鉢	椎塚		
椎塚		A 83	3	1 加 B1-2	鉢	椎塚		
椎塚		A 83	4	1 加 B1	鉢	椎塚		
椎塚		A 83	5	1 加 B1	鉢	椎塚		
椎塚		A 84	1	1 加 B1-2	壺	椎塚		
椎塚		A 84	2	1 加 B	深鉢	椎塚		楕円胴。小形。
椎塚		A 84	3	1 加 B	深鉢	椎塚		楕円胴。小形。
椎塚		A 84	4	1 加 B	壺	椎塚		
椎塚		A 84	5	1 加 B	深鉢?	椎塚		楕円胴。小形。丸底。
椎塚		A 84	6	1 堀 2	浅鉢?	椎塚		
椎塚		A 85	1	1 堀 2- 加 B	深鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 85	2	1 加 B	深鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 85	3	1 堀 2- 加 B	鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 85	4	1 堀 2- 加 B	深鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 85	5	1 加 B1	深鉢	椎塚		
椎塚		A 85	6	1 加 B1	深鉢	椎塚		
椎塚		A 85	7	1 加 B1	深鉢	椎塚		
椎塚		A 85	8	1 加 B1	深鉢	椎塚		
椎塚		A 85	9	1 加 B1	深鉢	椎塚		
椎塚		A 85	10	1 加 B1	深鉢	椎塚		
椎塚		A 85	11	1 加 B1-2	鉢	椎塚		
椎塚		A 85	12	1 加 B1 新 -2	深鉢	椎塚		
椎塚		A 85	13	1 加 B1	鉢	椎塚		
椎塚		A 85	14	1 加 B1	鉢	椎塚		
椎塚		A 85	15	1 加 B1-2	鉢	椎塚		
椎塚		A 85	16	1 加 B	鉢	椎塚		
椎塚		A 85	17	1 加 B1	鉢	椎塚		
椎塚		A 85	18	1 堀 2- 加 B1	深鉢	椎塚		
椎塚		A 85	19	1 加 B	深鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 85	20	1 加 B?	深鉢	椎塚		
椎塚		A 85	21	1 堀 2	深鉢	椎塚		
椎塚		A 85	22	1 堀 2	深鉢	椎塚		
椎塚 †		A 85	23	1 堀 2	深鉢	注記なし		木葉痕。
椎塚		A 85	24	1 堀 2	深鉢	椎塚		
椎塚		A 85	25	1 堀 2	深鉢	椎塚		
椎塚		A 86	1	1 加 B1 新	有孔台付深鉢	椎塚		
椎塚		A 87	1	1 加 B1	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	2	1 加 B1	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	3	1 堀 2	浅鉢	椎塚		底、別個体。
椎塚		A 87	4	1 後晩	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	5	1 加 B1	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	6	1 堀 2- 加 B	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	7	1 加 B1	浅鉢	椎塚		
福田 / 椎塚		A 87	8	1 加 B1-2	浅鉢	福田 椎塚		
椎塚		A 87	9	1 後晩	舟形浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	10	1 堀 2	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	11	1 堀 2- 加 B	鉢	椎塚		
椎塚		A 87	12	1 加 B1-2	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	13	1 堀 2	浅鉢	椎塚		
福田 / 椎塚		A 87	14	1 堀 - 加 B	浅鉢	椎塚 福田		
椎塚		A 87	15	1 加 B	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	16	1 加 B1	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	17	1 加 B1 新	舟形浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	18	1 加 B1-2	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	19	1 加 B1-2	鉢	椎塚		
椎塚		A 87	20	1 加 B1 新	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	21	1 加 B1	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	22	1 後晩	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	23	1 後晩	浅鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 87	24	1 堀 2	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87	25	1 加 B	浅鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 87	26	1 加 B?	浅鉢	椎塚		小形。

遺跡名	観察	整理番号	数量	型式	器形	注記	文献	備考
椎塚		A 87 27	1	加 B	浅鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 87 28	1	後晩	浅鉢	椎塚		手づくね。
椎塚		A 87 29	1	後晩	浅鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 87 30	1	加 B	浅鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 87 31	1	加 B1	浅鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 87 32	1	加 B?	浅鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 87 33	1	後晩	舟形浅鉢	椎塚		手づくね。
椎塚		A 87 34	1	加 B1	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 87 35	1	加 B1	浅鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 87 36	1	加 B1	浅鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 87 37	1	加 B1	浅鉢	椎塚		小形。
椎塚		A 87 38	1	後晩	浅鉢	椎塚		手づくね状。
椎塚		A 87 39	1	加 B	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 88 1	1	安 1	台付鉢	椎塚		台部。
椎塚		A 88 2	1	堀 2	深鉢	椎塚		
椎塚		A 88 3	1	安 3b	異形台付	椎塚		
椎塚		A 88 4	1	安	異形台付	椎塚		
椎塚		A 136 11	1	加 B1	深鉢	椎塚		
椎塚		A 136 18	1	加 B1 新-2	深鉢	椎塚		
椎塚		A 138 22	1	加 B	鉢	塚		
椎塚		A 138 23	1	加 B	浅鉢	椎塚		
椎塚		A 138 24	1	加 B2	角底	椎塚		
椎塚		無	1	後晩	浅鉢	椎塚		小形。
椎塚		無	1	加 B1-2	浅鉢	椎塚		
椎塚		無	1	堀 2	深鉢	椎塚		
椎塚		無	1	加 B1 新-2	注口	椎塚 四十一年一月	B108 図版 8, D55	『縄文集英』では余山。
椎塚		無	1	堀 2	深鉢	椎塚		
椎塚		無	1	加 B1 新	浅鉢	椎塚		

《表 註》

i) 遺跡欄

ここに記載されている遺跡名は、1958（昭和33）年に大阪市立美術館が当コレクション購入に際して付与した登録番号とそれに基づく台帳に記載されていたものである。ただし、今回の調査によって、受入時に一括でナンバリング・遺跡名付与が行われた中に、その名称と異なる（あるいは未注記の）ものが含まれていることが明らかになった。本来ならば、それを訂正してあらたなリストを作成すべきであるが、現在の調査が完遂するまではその訂正を控え、並記して比較できるよう情報を整理するに留めた（†マーク付）。なお、遺跡名の後に†がつく個体は、上記の場合の内、杉山文献によって遺跡名が付与されたものを示す。

ii) 観察欄

※がつくものは破片多数につき今回の対象からは除外した。

iii) 管理番号欄

この番号は、大阪市立美術館が当コレクション購入に際して付けたもので、「A」は土器を示す。悉皆的な個体管理番号の注記はこれ以降行われていないため、今回もこの番号に準拠した。ただし、管理番号の注記も不完全で、注記が施されていない資料も存在する（リスト中の「無」としたもの）。

iv) 型式欄

型式名の略号は以下の通り。堀＝堀之内、加＝加曽利 B、曾＝曾谷、安＝安行

加曽利 B1 式新は、鈴木正博氏（鈴木正博他編 1981『取手と先史文化』（下））の加曽利 B1-2 式にほぼ相当する。

v) 注記欄

薬師台地点の注記には旧字体のものもあるが、ここでは新字体で示した。「注記なし」は、今回の肉眼による観察で、遺跡名が確認できなかったもの。

vi) 文献欄文献

- A：杉山 寿栄男 1923『原始文様集』（1978 復刻発行 北海道出版企画センター）
- B：杉山 寿栄男 1928『日本原始工芸』（1976 復刻発行 北海道出版企画センター）
- C：下郷共済会 1927『鍾秀館蔵日本石器時代土器選集』
- D：上田 舒ほか 1958『縄文集英』大阪市立美術館